

# 河口堰の四季

## ボラのへんりて何々

ボラはもともと海魚ですが、海で孵化した稚魚は春になると群れをなして利根川を遡上してきます。夏の間は利根川の泥底の青



河口堰近くでボラ釣りを楽しむ地元の方々

植物を食べて成長し、秋になると海にもどるといふ生活を3年くらい繰り返しますが、4年魚以上は海で生活するようになります。非常に好奇心の強い魚で、春から夏にかけて川面でジャンプを繰り返しながら、船に近づいていく姿が利根川河口堰でもしばしば見かけられます。



ボラを釣り上げて大満足

方もおられますが、自身の魚であり、刺身やあら、フライなどにして食べるとおいしい魚です。

その中でも、酒の肴として珍重されているのが、ヘソです。ボラのヘソと言うと驚かれる事と思いますが、実はこれ、ソロバン玉のような形をした胃袋のこと。軽く塩コショウをまぶって焼き鳥の要領で竹串に刺し、軽く炙って出来上がりです。なお、特に冬場のボラは脂が乗っており、「寒ボラ」と呼ばれて珍重されていますが、この魚は河口堰のある下流域では、成長段階によってオボユ、イナ、ボス、ト下の順で呼び名が変わる出世魚でもあります。



コジュリン (東庄町の鳥)

## お花見のご案内

今年もお花見シーズンとなりました。桜の名所といえは小見川町の城山公園が有名ですが、利根川河口堰管理所内の桜の木も毎年我々職員や一般の方々を魅了させてくれていきます。3月下旬からはライトアップされて夜桜も楽しむことができます。お弁当などを持って気軽に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



管理所内の桜の様子

## 編集後記

梅の花が咲き始め、春の訪れを感じる季節となりました。利根川河口堰では無道改築の実現に向けて、職員の間で、そして自然へ対する意識が一段と高まっているのを感じます。自然が豊かな場所では季節を感じることもできます。利根川河口堰がこのような四季を感じられる自然環境と共にいつも存在できればと思っています。

(編集担当 菅)

この広報誌に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等は下記までお寄せ下さい。また、施設見学も受け付けています。広報担当 総務グループ 松本(まつもと) 井藤(いふじ)までご連絡ください。  
〒289-0611  
千葉県香取郡東庄町新吉227.6番地  
水資源機構 利根川河口堰管理所  
TEL.0478-86-0477  
FAX.0478-86-3457  
E-mail : tonekako@topaz.ocn.ne.jp

## 地域を守る川止堰

# 河口堰だより

## ユーザーの声

利根川の河口より18.5km上流地点に位置する利根川河口堰は、下流部の崖害防止と新規利水を目的として昭和46年に完成し、これまでに治水そして利水等で流域および沿川の人々の社会経済活動に貢献しています。

利根川は私達の「命の源」である水道水源としても非常に大切な河川であることは誰もが知るところです。この下流域は海水の影響による塩分問題で河口堰ができる以前は河口より約50km地点(佐原市)当たりでも塩分が高く、地元住民からは「お茶に塩」とか



平成16年12月12日 情報交換会の様子

「ご飯は塩のふりかけ」などと称され、農作物や生活用水に塩害を与えることが多かったようですが、河口堰が出来てからは、このような問題は解消したようです。それでも、東総広域水道企業団が取水開始をした昭和56年当時は31km地点(小見川町地光)当たりでも水道水源としては塩分が高く、私は当時から水質担当をしており、塩分問題で大変悩まされました。平成になってからは、ゲート整備の時には予備ゲートを使用するなどユーザー(利水者)を考慮しての河口堰の管理もあり大分改善されましたが、まだ時々塩分の高い時があります。水質は、気象状況、河川流量及び排水の混入等により大きく影響されます。さらに利根川下流域は、上流側からの雑糞使用された水であり、特に黒部川貯水池については、閉鎖性水域に伴う富栄養化現象など複雑多様化した水質問題が深刻化していることから水道水源として、早急な対策を望むもので、激変する社会環境の



同日の情報交換会で 熱弁する名誉課長

変化や将来的な人口減少推計等による法的整備の一環として、平成15年10月から水資源開発公団が独立行政法人水資源機構に改名し、開発から維持管理の時代に向けて、その対応もユーザーを視点にした素晴らしい経営理念へと変身しました。水資源機構の職員間では既に、この理念が浸透し、ユーザーへの協力体制に積極的な取り組みを感じます。例えば、平成15年度は、12月12日に水資源機構利根川河口堰管理所と利根川下流水道水源対策協議会(5水道事業者)との情報交換会を2回行い、「安全で良質な水道水の安定供給」に向けて、河口堰の管理状況や水質問題等に関して熱心な話し合いが行われております。

このような情報交換会を通じて、これまでの治水、利水中心から水質問題についても積極的に取り組んで頂き、今後の水質改善につながることを期待するものです。

(執筆 菅)  
東総広域水道企業団  
おいしい水づくり課  
名誉課長 課長

(次回 は、「みんなが考えよう水環境問題」を予定しています。)

# 利根川下流沿川紀行

## 水郷筑波

### 国定公園

昭和2年に毎日新聞社で「日本八景25勝」を選定するという企画がありました。

その頃、千葉県佐原、小見川、菅川そして茨城県潮来、鹿嶋、群生では、外輪船による舟運の盛し出す旅情や野口雨情の「船頭小唄」で全国的に脚光を浴び、観光客がたくさん訪れるようになっていきましたが、さらなる

観光客の誘致を目指して、「水郷の利根」をキャッチフレーズに一大運動を展開しました。残念ながら「日本八景」入りは逸したものの、25勝の首位に選定されたという記録が残っています。

昭和11年3月には佐原から利根川に架けられた橋が「水郷大橋」と命名され、この水郷大橋の開通を記念して橋の脇に「水郷之美冠天下」の碑が建立されるなど、「水郷」の名は、その後広く一般に定着していきまし

昭和10年6月には、この水郷の地域が県下の名勝として「千葉県立公園」に指定され、昭和34年3月には厚生省より「水郷国定公園」として指定を受けました。

その後、筑波山なども区域に加えて、「水郷筑波国定公園」となっており、現在に至っています。

徳富蘇峰の筆による



「水郷之美冠天下」の碑

(利根川愛好会会長 林 敏夫)



「水郷之美冠天下」の碑は、水郷大橋が昭和44年に架け替えられた際、保存のため水生植物園に移設されました。

このような歴史的情緒豊かな「水郷」地域はこれからも大切に保存していきたいものです。

# イベント案内



徳谷隆義氏による講演の様子

水資源確保は、「安全で良質な水を安定して安くお届けするとともに流域の水環境の保全や地域の活性化にも積極的に貢献すること」を企業理念としています。

利根川河口堰管理所では、この企業理念を踏まえて業務を遂行していくとともに、利根川下流域の産業・水文化・自然環境等について、地元の卒業生等を講師とする勉強会を実施することとし、平成16年2月26日に第1回利根川下流域に関する勉強会を利根川河口堰管理所内説明ホールにて開催しました。

第1回勉強会には、国土交通省、千葉県、東総広域水道企業団、小見川広域水道企業団、房総導水路建設所、千葉用水総合事業所、巖ヶ浦開発院



勉強会に集まった多くの参加者の様子

合管理所、巖ヶ浦用水管理所、利根川河口堰管理所の職員約40名が参加し、何川水辺の国勢調査のアドバイザーを長年におわたって務められてきた徳谷隆義氏から「利根川における在来魚と外来魚について」というタイトルで、利根川下流域における魚



スライドを用いた説明の様子

の生態についてご講演いただき、盛会のうちに終了しました。

このような勉強会はこれからも継続していきたい。今後は地元の方々のご参加も可能な受け入れ態勢を検討していきたいと考えております。

コスト意識をさらに徹底し、厳しい事業費管理により工期の遵守とトータルコストの削減を実現していくことは、独立行政法人水資源機構における企業理念の根幹となっています。

利根川河口堰では、このトータルコストの削減



試験後のゲート (ゲート上部の青色部分が今回の試験箇所)

を目指して様々な取り組みを行っています。

例えば、河口堰には水門が9門、黒部川水門には水門が2門あり、この他に船の通路である開門が河口堰と黒部川水門に1つずつあります。そのため、毎年、計画的に水門整備を実施するようにしています。

その水門整備のうち、ゲート試験については、本年度よりこれまでの実績を踏まえて、更新年数や試験方法について見直ししました。この見直しによりゲート試験については、今後5年間のトータルコストで70%のコスト削減となる見込みです。

利根川河口堰では、今後さらなるコスト削減に努めてまいりますので宜しくお願い致します。

## 短信・河口堰

### 利根川河口堰でのコスト削減の取り組み